

意見内容	回答
<p>すくすくコンサートについて</p> <p>第3回小委員会の資料19ページ「R3年度以降の青少年事業の全体構成(案)」の中で“すくすくコンサートの廃止”とありますが第4回小委員会の会議資料7ページ「2. 令和3年度子ども政策予算事業(予定)について(報告)」の中では“エコルマホール改修工事のため開催見送り”となっています。“すくすくコンサート”は、コロナが落ち着けば再開するという事でしょうか。小委員会に於いては廃止や再開との結論は出せませんが、狛江市青少年問題協議会へ提言することはできると思います。但し今までのような形で再開は難しいと思います。“すくすくコンサート”は狛江市青少年問題協議会だけではなく狛江市としての考えを考慮しなければなりません。再開を目指すのであれば令和3年度の狛江市青少年問題協議会総会を経て、小委員会に於いて検討してその結果を以て令和4年度より“すくすくコンサート”として再開できるように準備を進めておく必要があります。もちろん小委員会のメンバーが主体となってでは出来ないとの意見が多ければその旨を上位組織に伝え別の団体等に移すことも考えられます。</p>	<p>すくすくコンサートにつきましては、令和3年度はエコルマホールの改修工事のため開催は見送ることとしております。</p> <p>市としては、令和4年度以降については、令和3年度から実施する子ども向けワークショップや新子ども議会も含めた狛江市の青少年事業全体の中で、すくすくコンサートの目的や役割、子どもたちの負担、運営側の体制等を勘案して、実施の可否を決めていくことになると考えています。</p> <p>(※現時点で、改修工事の工期は「令和4年12月まで」となる旨、担当課から先日アナウンスがありましたので、その関係で令和4年度の開催を見送る可能性もあります。)</p>
<p>会議資料3ページにて、新規事業を「小学生向けワークショップ」としているが、対象には中学生も参加となっているので「子供向けワークショップ」でしょうか。資料の7ページ「子ども議会」「青少年会議」の見直しで「新子ども議会」としているが、前者は対象が小学生、後者は中学生でした。「新」があっても対象が小学生に勘違いされそう気がします。</p>	<p>失礼いたしました。御指摘のとおり「子ども向けワークショップ」であり、「新子ども議会」の対象は小学生及び中学生を予定しております。「小学生向けワークショップ」は「子ども向けワークショップ」と読み替えをお願いいたします。</p>
<p>「健全育成看板」についても協議できれば良かったと思います。</p>	<p>健全育成看板につきましても、掲載されている文言等が古くなっているものもある中で、今後その取扱いについて皆様の御意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>新規事業につきましては、大変有意義な事業であると感じます。しかし、課題はやはり参加する子ども達を、どのような形で集めていくかと感じます。現状、子ども達が主体性、自主性を持って自らの意思で参加するというのはなかなか難しいと思われまますので、この事業がいかに魅力的で意義あるものかを、広く様々な方法で保護者に周知(宣伝)していく必要があると思います。「青少年会議」と同じような流れになることは避けたいところです。</p>	<p>新規事業につきましては、御指摘のとおりいかに子どもたちに参加したいと思ってもらえるか、が重要になると考えております。</p> <p>既存の事業で実施していた学校への割り当てなどはせず、主体性をもっていただくため、周知等については、その点を十分に踏まえた上で実施してまいります。</p>
<p>市主催事業の「子ども向けワークショップ」「子ども議会」はリーダー育成というより養成的要素が強いように思います。市として将来のリーダーを望んでいるからだとは思いますが一部の選ばれた子どもだけに特化したものと感じました。そうなると、その他のほとんどの子どもたちはどうなるのだろうかと考えました。知ってのとおり、子どもの成長は個々バラバラで小学校からリーダー的存在になれる子どももいれば高校生になってから飛躍する子もいます。市主催事業に参加できない、参加しない子どもたちを育むのは市内で活動している青少年関係団体の今後の役目なのだろうと深く感じました。</p>	<p>新規事業につきましては、地域課題の発見からそれを自分ごととして捉えること、そしてその解決までを楽しみながら実施することで、主体性などを育てていく事を目的としています。より多くの子どもたちに参加いただく(育成に関わっていく)ことが理想ではありますが、その点につきましては、御意見いただきましたとおり、地域で活動いただいている育成委員会や青少年委員などをはじめいたしました本委員会委員の所属している各種団体様の役割とも連携しながら地域全体として狛江の子どもたちの育成を育てていくことができればと考えております。</p>
<p>事務局の説明に賛同する立場より意見します。</p> <p>今年度の議論を通じて、既存の事業に有り方を見直すことができたことを、前向きにとらえています。「すくすくコンサート」は令和3年度の実施見送りだけでなく、活動一時休止が望ましいと考えます。生徒児童を取り巻く状況や学校の変化や当事者のニーズを総合的に勘案すると同コンサートは当初の目的を終えたと思います。今後の青少年事業のメインテーマ、とくに「主体性」を尊重する考え方に賛同します。子どもの主体性をはぐくみ、試行錯誤できる場所をどれだけつくることができるか、その活動によりそっていくか今後の私たち(地域の大人)のテーマです。学校や既存の地域活動やクラブ活動に加え、子どもたちの主体性発揮の場が増えるといいですね。その取り組みの一つとしてのワークショップが盛り上がるよう期待します。新しい子ども会議とリンクするような形を想定しているようですが、無理に運動しなくても良いのではないかと、とも思えます。「子ども議会への提案」自体が目的になってしまうことを危惧します(既存の青少年会議と逆戻りしてしまう危険性)。出来る限り、ワークショップ参加の垣根は低く、「楽しむ」ことをベースにした取り組みにしていきたいです。「楽しい」活動からしか「主体性」は生まれません。</p> <p>-----</p> <p>子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者</p> <p>子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず</p> <p>-----</p> <p>ですかね。地域の祭りに出席する、年間を通して農園を営む、車道を通り止めにして沿道の人と外遊びを企画、とか。フィールドワークそのものが目的であり、楽しみであるような場を目指したい。(楽しませてもらう)「お客さん」の立場ではなく、自ら楽しみを作り出していくこと。そして、その場を通して、学校などの既存の枠組みを離れて、多世代、多様な考え方に触れること。議会で何かを要求することが主催、とだけとらえてしまうのはさみしい。自ら人生を楽しむ、社会をつくっていくこと。違う意見とまじりあい、より高い解決を見つけていくこと。主体的に社会に関わっていく価値を共有していきたいと思えます。ですが、まずはやってみることが大切。活動を振り返りつつ、臨機応変な計画の見直しに期待します。</p> <p>※少し脱線しますが、青少協だよりで取り上げられている「野川のえんがわこまち」や「よしこさん家」の取り組みには、とても可能性を感じます。こういったフリースペースを使って何か楽しいか? 雑多な価値が交流する場をつくれなにか? 上記のワークショップに絡めたら何かが生まれるか? こういった空間が地域内に増えていくことを期待しています。</p>	<p>新規事業につきましては、地域課題の発見からそれを自分ごととして捉えること、そしてその解決までを楽しみながら実施することで、主体性などを育てていく事を目的としています。また、子ども議会との連携につきましては主催者としての教育の育むことを目的として連携を図る(補助要件)ところですが、この部分につきましては、令和3年度の事業をトライ&エラーを重ねながら実施していく中で、青少年事業全体として、更にブラッシュアップしていく必要があると考えております。また、事業の実施に当たっては、フィールドワークを行いながら楽しむことをメインに据えながら、(御意見いただきました場所の設定も含めて)進めてまいりたいと考えております。</p>